様式１

令和５年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和６年３月１日

江別市立野幌若葉小学校

１　本年度の重点目標

「学び合い、認め合い、きたえ合う　若葉っ子」

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	主体的・対話的で深い学びの実現と確かな学力を育む指導の工夫改善	A	・ICT等も活用しながら工夫して授業改善を行い、学びの保障を進めた。NRTや全国学力・学習状況調査の結果分析等も踏まえ、学力向上委員会を定期的に開催し、統一した指導を進めた。 ◎学校改善プランにおける指導を組織的に継続して取り組んでいく。また、合同授業や交換授業、少人数指導等も取り入れ、改善ポイントを意識して推進していく。	A	A
	効果的な教育活動を推進する働き方改革の実施	A	・「勤務時間を意識した働き方」や「業務の効率化、スリム化」の取組が進んだ。平均時間外勤務について昨年度と比較すると、４～７月では５時間、８～１２月では３時間短縮されている。 ◎会議等の運営をさらに工夫するなど、業務においてスリム化、効率化、平準化を進めることで学級業務や学習準備の時間を確保し、効果的で質の高い教育活動が推進できるように働き方改革に取り組んでいく。	A	A
教育課程・学習指導	「対話」を重視した、子どもたちが活躍する授業づくりによる、資質・能力の向上	A	・新型コロナ感染症が５類へと移行し、子どもたち同士の交流や関わりが制限無く行えるようになった。校内研究でも国語科においての「話す」「聞く」を重点に対話を重視した授業づくりを進めてきた。 ◎今後も授業改革を進めていき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進していく。	A	A
	子どもが考えをまとめたり、他者との協働的な学びを進めたりするためのＩＣＴ（タブレット端末等）の有効活用	A	・「えべつ情報活用能力を育む学習プログラム」を基に、特に低学年は、タブレット端末に慣れるところからスタートし活用を進めた。また、協働的な学びを進めるためのツールの一つとしてタブレット端末の「スマイルノート」を活用した。 ◎他者の考えを知り、自分の考えを深めるための効果的なＩＣＴの活用方法について今後も研修を深めていく。	A	A

	支援を必要とする児童や、一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実	A	・特別支援教育コーディネーターを中心に情報を共有し、組織的な支援体制を強化して指導を進めた。 ・保護者や各関係機関との連携を強化し、対応の充実を図ってきた。 ◎個別の支援を充実させるために、さらに組織体制を改善し、個に応じた指導方法を工夫していく。	A	A
生徒指導	基本的生活習慣の定着ときまりを守る態度の育成	B	・中学校区での生活のきまりに基づき、４期に分けて共通した目標を設定し意識の向上を図ってきた。また４校で時期を合わせたあいさつ運動も実施した。廊下歩行や教室移動の際に、落ち着かない面もあった。 ◎今後もあいさつや廊下歩行、チャイム席、姿勢など、目標を焦点化して指導していく。	B	A
	いじめ・不登校の未然防止、問題行動等への早期・組織的対応、共感的理解を通した好ましい人間関係の確立	A	・いじめ対策委員会、いじめアンケート（3回）、学年部会、週１回の職員集会、生徒指導委員会等を生かし、情報を共有し、素早く組織的に対応した。 ・校内適応指導教室を運用することにより、家庭や各関係機関と連携し子どもの居場所づくりを進めた。 ◎発達支持的生徒指導を基盤とし、共感的な人間関係と援助希求的態度の育成、自己有用感を高める指導を行う。 ◎各関係機関と連携し、個別相談や定期的なケース会議の実施等、きめ細やかな対応を進めていく。	A	A
健康な体作り	パワーアップタイムの取組など、課題の焦点化と体力向上に向けた具体的実践	A	・なわとび検定や外部講師による走り方教室や体幹を鍛えるエクササイズ等、体力向上のための取組を進めた。 ◎新体力テストの分析から「体力向上プラン」を今年度中に作成し、授業改善や運動の機会の増加、体力向上への意識を高め取り組めるようなさらなる環境整備を行う。	A	A
	安心安全な教育環境への配慮や、健康教育・安全教育の充実	B	・新型コロナウイルス感染症が５類へと移行したが、引き続き感染症対策（手洗い・換気等）に留意しながら教育活動を進めてきた。 ・熱中症対策、熱中症警戒アラートの確認と熱中症指数モニターの活用、スポットクーラーの活用、水分補給の呼びかけなどの取組を進めた。 ・校内外で安心安全な教育活動が進められるよう、危機管理体制の再確認と不審者対策等の研修を実施した。 ◎情報を素早く共有し、組織的な対応を進める。保護者や地域と協力・連携のもと、校内外の施設点検や物の整理整頓、玄関の施錠、来校者確認の徹底、見守り活動の強化等、安心安全な教育環境の整備を進める。 ◎食に関する指導や衛生管理、健康な体づくりを推進する。	B	A

保護者・地域から信頼される学校作り	学校便り、ホームページ等を通じた情報発信や、懇談会等保護者・地域との連携	A	・参観や懇談、学校だより、学年だより、ホームページ、一斉メール等で積極的に情報を発信した。昨年度に引き続き、見守り隊の方々と話し合う場を設定し意見交流した。 ◎さらなる情報発信・収集・共有の方法を工夫していく。	A	A
	地域の人材や施設、環境などの教育資源を活用した取組	A	・外部講師（情報大学との連携等）を積極的にお招きし、児童の学びが深まった。また、消防署や郵便局、情報図書館、校区のお店等にも見学や取材に行くなど地域の方々にも多くの協力をいただいた。 ◎今後も地域や外部の資源を確保し、より効果的な教育活動を進めていく。	A	A
小中一貫教育	小中一貫教育においての小中連携、小小連携、幼保こ小連携の促進	A	・令和５年度から小中一貫教育が本格実施となった。野幌中学校区の事務局校として積極的に連携を図ってきた。また、「野幌中学校区小中一貫教育ＨＰ」をつくり、取組の発信も進めてきた。 ◎めざす子ども像「夢に向かい行動する子」の実現に向け、さらなる小中連携、小小連携を進めていく。小中９年間の学びをつなげる教育課程のスムーズな連携を図る。 ◎幼保こ小の交流も、できるところから取り組んでいく。入学時のスタートカリキュラムによる、幼保こ終盤から小学校初期（かけはし期）の学びの連携を図る。	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

○野幌若葉小学校としての冷静な自己評価の数々、それに対応した具体的な改善策がよい。コロナやインフルエンザ同時流行等の中、校長を筆頭として一丸となって取り組んでいる様子がよくわかった。

○現実的に働き方改革を推進することは簡単ではなく、時間外勤務を削減するには学校側だけではなく、PTA や各家庭の協力や理解が必要である。そのために、まず実態をもっと広く情報提供し、現状を各家庭に知ってもらうのも一つの試みであると思う。

○廊下歩行や挨拶について、児童の休み時間の様子を見てみたい。学校運営委員の授業見学の際に。

○多くの児童や先生方がマスクなしの生活をしていることにうれしく思う。合わせて感染症対策もしっかりされていると感じているので安心している。

○市内の中でも体力が低い原因がどこにあるか、江別市というせまい地域で、地域差が出るとも思えないので、たまたま体力のない子が多いのかなとも感じた。食育や体育等を通して改善できるとよい。

○ICT の活用など、多方面に渡り、工夫された授業や取組がされており、すばらしいと思う。

○タブレット端末の持ち帰りについて、単一な宿題だけではなく作成的なものがあるとよいと思う。宿題以外のことで使用するのをためらっていることもあるのでもったいないと感じる。

○廊下に展示されていた、図工の作品のレベルの高さに感心させられた。今の学校はタブレット中心かなと勝手に思っていたが、そればかりではないと実感した。

○せめてスクールゾーンだけは除排雪をしっかりやっていただきたいと思う。近所の住人はスペースができたと思って道路に雪を出しているように見受けられるのでやめてほしい。自治会としても呼びかけが必要と思う。

○学校内の暑さ対策や通学路における除排雪対策など、学校だけでは解決できない問題も多いと思うが、引き続き取組をお願いしたい。

○HP、一斉メール等、情報の早さや内容が昨年よりも充実してきている。先生方の努力がすばらしい。

○コロナが５類に移行されたことにより、より充実された取組が実施されていくことを期待する。幼保こ小連携についても工夫しながら交流していけることが課題である。

【評点】Ａ：よい　　Ｂ：おおむねよい　　Ｃ：ややよくない　　Ｄ：よくない